



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



高濃度カリウム製剤の病棟在庫廃止を 再度徹底しましょう

この間、各地協で病院の相互診断のとりくみが活発に行なわれています。その中で、いくつかの病院で病棟にKCLが在庫されている状況が報告されています。

高濃度カリウム製剤については、各地で起こった重大な医療事故の教訓から、04年に厚生労働省・日本医療機能評価機構から緊急提言が出されています。全日本民医連では04年8月に「アンブル型高濃度カリウム製剤、10%キシロカインのすべての病棟および外来在庫の廃止について」緊急提起をしています。そして全国で注射業務の相互点検がおこなわれ、業務の見直しがはかられました。

しかし、昨年6月には愛媛県の公立病院で高濃度カリウム製剤の誤注射による死亡事故が発生するなど、事故が繰り返されています。あらためて注意喚起を呼びかけます。

現在はプレフィルドシリンジタイプの製剤の開発・普及が進みました（プレフィルドミックスシリンジ）。それ自体は歓迎すべきことですが、「プレフィルドミックスシリンジの製剤は側管注できないので安全だから病棟に在庫してもよい」という考え方は大変危険です。事故が起こるときには「思いこみ」や「スリップ」によるものが多く、危険な因子をできるだけ現場からなくすることがまず重要です。

あらためて下記の2点について徹底して下さい。

- 1. 高濃度カリウム製剤は、どのような形態であっても（プレフィルドミックスシリンジや補正用キットなどであっても）病棟保管せず、薬剤部門での管理を徹底して下さい。**
- 2. 注射業務の安全性を高めるために、「追加混注の禁止」を原則にしてください。**

新入職員を迎えました。あらためて安全な注射業務について学習を進めて下さい。

全日本民医連編集の「みんなでとりくむ注射事故予防」（発行：保健医療研究所）をご活用下さい。